

岡山県

せいきょう連

岡山県生活協同組合連合会 Tel : 086-221-4301 ホームページ <http://kenren.jccu.coop/okayama>

第47回岡山県生協連通常総会が開催

総会には、来賓として5人が臨席され、石井県知事のメッセージをはじめ、暖かい励ましの言葉をいただきました。また、県議会議長、政党、国会議員、県内の協同組合や友誼団体、全国の生協などから祝電・メッセージを頂戴しました。

議案は、1~4号議案まで、すべて賛成多数で可決・承認され、最後に総会決議を採択して06年度の活動がスタートしました。

とくいきつ (要旨)

会長理事 吉永 紀明



県内各地からご参加頂きありがとうございます。ご来賓の皆様には、公私ともご多忙な中をご出席を頂きまして厚くお礼を申し上げます。

景気は順調に回復しているということですが、一般庶民の家計における感覚は、定率減税の縮小廃止や、介護保険料の改定、年金の切り下げ、高齢者医療の負担増など、どれをとっても暮らしにとっては厳しい状況となっています。

県生協連会員生協の経営状況では、購買生協は小売業界の激しい競争競争の中で、厳しい経営を強いられています。また、医療生協も診療報酬の引き下げが経営を圧迫して、次の発展を支える利益確保も難しくなっています。大学生協、学校生協、労災生協もまた民間との競争にさらされています。

中四国9県9地域生協の事業連帯組織、コープCSネットがこの4月から本格的にスタートしました。

昨年は、被爆・敗戦60年ということで、県生協連として戦争の悲惨さを学ぶために、戦争が終わって30年目を迎えたベトナムを訪問しました。24歳になったベトナム人、ドクさんにも会うことが出来ました。30年たった今も、生まれてくる子どもの1%に、ダイオキシンの影響で障害を持っているそうです。戦争の悲惨さを改めて感じました。

今、憲法改正の動きが出てきています。再び戦争をしないということで九条を定めました。多くの組合員に、憲法がどのような役割を果たしているのか、平和を守るためになにか大切なのかを、語りかけ、学習をして頂きたいと思います。

先日、国会で消費者契約法の一部を改正する法律が決定されました。消費者被害を差し止めるために、岡山県でも訴権を担う消費者組織を立ち上げる準備を進めています。皆様のご協力をお願いします。

昨年、県生協連の会員で住宅生協が、残念ながら解散のやむなきに至りました。一方で、3年前に設立されて、県内で活動されていたグリーンコープ生活協同組合おかやまが、県生協連に正式に加入いたしました。これから、よろしくお願いたします。

1960年3月2日に岡山県生協連が設立されてから、4年後の2010年に50周年を迎えます。県内生協の発展と、生協の社会的役割強化の準備のために、50周年検討委員会の立ち上げを提案しています。よろしくお願いたします。

来賓のみなさまよりご挨拶をいただきます



↑ 県生活環境部県民生活課 総括参事 三宅 進さん



↑ 参議院議員 江田 五月さん



↑ 中国四国農政局 消費・安全部長 南部 秀満さん



↑ 日生協中四国地連 事務局長 照井 雅史さん



↑ 県労福協 会長 坪井 義範さん

総会で決定した2006年度の方針と課題



↑ 総会議長



↑ 総会風景



↑ 監査報告



↑ 議案提案



↑ 閉会挨拶

1. 会員生協の組合員、職員、役員が参加する各種の学習・研修交流等を連帯の場を通して充実させ、その成果を会員生協の組合員活動、組織運営、経営活動に反映させます。

課題

- ① 基調講演とともに、県生協連役員及び単協役職員が参加する研修交流会を開催する。(1月)
 - ② 会員生協組合員の学習交流の機会として、全体及び医療分野で組合員活動交流学習会を行う。(10月・1月)
 - ③ 他生協訪問研修について、研修目的と意義にもとづいて、実施の方向で検討する。
2. 県内生協の連合会組織として、渉外・広報機能を駆使し、行政、議会、他団体(協同組合、消費者団体、市民団体など)への提言や活動交流を通して親睦を深め信頼関係を強めます。

課題

- ① 生協の要望や提言を県行政に反映するため、「要望書」を提出(10月)し、生協所管部署をはじめ、食の安全や消費者政策などを所管する関係部署との懇談会を開催する。
 - ② 県の「消費生活懇談会」や「食の安全対策協議会」の委員として出席するほか、国や県の意見交換会・懇談会、また、パブリックコメント対応など、情報交換や提言の機会を活かし、パートナーシップを図る。
 - ③ 県議会議員との懇談会(12月)、知事との懇談会(1月)を実施し、生協の理念や活動の理解促進を図る。
 - ④ 県内の協同組合4連が参加する協同組合連絡協議会に結集し、交流会などの企画に積極的に参画する。
 - ⑤ 県消団連に結集し、事務局として、代表幹事団体としての役割を担い諸活動に取り組む。また、県消団連の呼びかけで行われている「消費者ネットおかやま連絡会」に結集する。
 - ⑥ 県生協連のホームページ並びにせいきょう連ニュース・会報は、情報提供の大切な手段として充実を図る。
3. 会員生協が取り組む食の安全、環境、福祉、平和、防災、まちづくりなどについて情報交流や学習機会を設け、生協法改正、税、年金、医療など全国共通課題にも、一致点を大切に、日本生協連(中四国地連)や消団連(全国・県)などと連携して取り組みます。

課題

- ① 食の安全条例の策定に向けて、購買生協を中心に(仮称)「食の安全条例研究チーム」を設け、提言する。
- ② 「県民平和のつどい」は実行委員会事務局として役割を担って取り組む。
- ③ (財)おかやま環境ネットワークの構成団体として、アースデー、環境フォーラムなどに積極的に参画する。
- ④ 生協法改正、広域防災、消費者政策、食の安全、福祉・ボランティアなどは、日本生協連とも連携して継続的に取り組む。
- ⑤ 消費者政策(団体訴権)、食の安全、社会保障・税・年金・医療、環境、平和・憲法、ど全国(県外地域的課題は、全国・県の消団連に結集して取り組む)。

4. 県生協連の創設50周年を含め、中・長期的構想を語り合い共有化します。

課題

- ① 県生協連創設50年の歩みと存在意義を共有し、会員生協の連帯を基礎とする社会的役割について学ぶ。
- ② 理事会内に50周年検討委員会(仮称)を設け、県生協連の過去と今、未来をとりまとめ、別途記念企画を検討する。

岡山県生協連 第47回通常総会

【6月27日(火)オルガホール】(一面のつづき)

母子の愛情を肌で確かめるカンガルーケア、“お母さんのくつろぎの場”としての“赤ちゃんマッサージ”、“離乳食講座”などの“赤ちゃん同窓会”協立保育園の園開放など、医師・看護師・保健師・保育士・ボウティイが協力し合っ
て子育て支援、安心して住み良いまちづくりをめざしています。



↑子育て支援について

永禮 知子さん(岡山医療生協)

スーパー店頭での健康チェック、ラジオ体操後にゴミ拾い、時には旅行も、親睦がエネルギーの源泉になっています。

健康チェックを中心に「医療生協の健康づくり」を広げようと、夢は大きく膨らんでいます。

↑医療生協の支部活動、班活動の経験



清水 笑子さん(倉敷医療生協)

食育って?1人ひとりがたべることを大切にできること、自分にとって望ましい食生活を考え実現できる力を育むこと。

おかやまコープでも「たべる たいせつ」をテーマに「家族でできるフード&エコチャレンジ」に取り組めます。

食べることの大切さ、奥深さをいろいろな切り口からバランスよく提供できる
といいなと考えています。

↑“食べる大切 フード&エコ” 岡本由美子さん(おかやまコープ)

会場発言から

「子育てひろば」のルールもつくり、12畳の部屋を確保、玩具を揃えての最初の参加は一組の親子。2ヶ月後にはなんと14組の親子が参加。今は、手狭になった部屋のこと、月1回の開催数を増やすこと、スタッフ増員のことを考えています。



↑子育て支援の取組みについて 瀬戸垣内 修さん(三井造船生協)

夢と希望を抱いて入学した新入生たちに、これからのキャンパスライフを安心して、楽しく、有意義に過ごしてもらおうと、住まいや共済、ミールカード・パソコン、就職活動に至るまで、先輩学生たちが自分たちの経験を伝え、アドバイスしています。



↑新学期アドバイザーについて 栗山 保夫さん(岡山大学生協)

◆ 第25回岡山県民平和のつどい【7月8日(土)オルガホール】

今年の平和のつどいは、“語りつごう「ひばくの心」つくろう平和・・・もともとも輝かそう憲法9条を!”をテーマに、延べ約500人が参加しました。

岡山大うたう会「みみんこ」による歌や踊り、当時を語る被爆者の人たちの証言、山陽女子高校放送部の朗読「あたらしい憲法のはなし」、「憲法にこころ寄せて」の県婦協水野会長のお話があり、過去から現・未来への平和の価値をみんなで考える場となりました。

また、ゲストのお笑いコンビ「まいまい」による「憲法お笑い」では、会場は爆笑と涙に一変、岡山合唱団の歌声をバックに平和を映像とインタビューで確かめ、最後はピースアピールで締めくくりました。



↑総会決議の提案

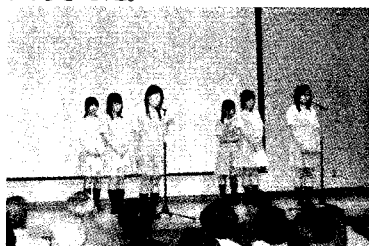
↑議案採決風景



↑「みみんこ」の演技



↑水野三重子さんのおはなし



↑山陽女子高校放送部の朗読



↑アンコールも意気投合、熱演のマイマイ



↑延べ500名、満席の会場

2006 4 月以降の主な取り組み

◆アースデー2006 ファミリープログラム【4月22日(土)】

～自然にふれあい、楽しんで、地球の未来を考えよう～

アースデーを記念して、(財)おかやま環境ネットワーク主催、県生協連などが共催して行なわれました。

56家族137名が参加、講演では、ヒトデ、ウニなど海の生物の紹介や自然海岸が失われ生態系が崩れつつある現状の話し、砂浜では、地引き網の体験、段ボール箱を使った燻製づくりなどに挑戦。地引き網には、フグ・ボラ・メバル・ナマコ・ヒトデなどがかかり、抽選で自宅に持ち帰りました。

穏やかな日和のもと、参加者にとって身近な“自然”を満喫、有意義な一日となりました。



↑ヨイショ!ヨイショ!カも入って 地引き網

◆消費者月間学習講演会が開催【6/17(土)国際交流センター】(県消団連主催)

10団体82名の参加がありました。

講演は、「社会保障の展望と財源問題」と題して、専修大学経済学部教授の唐鎌 直義さんにお話しいただきました。

日本の社会保障をめぐる、主に年金財政や国内総生産などの実態数値をもとに国際比較し、社会保障費に占める国庫負担の割合、税制の在り方などに触られました。

また、この講演に先立ち、「防ごう!消費者被害」をテーマに、岡山県消費生活センターの末金 絹枝さんにお話しをしていただきました。



↑玄関先にクーリングオフの“貼付”も効果的



↑国富に見合った社会保障を、対GDP比でEU水準に上げると

◆職員研修交流会(10年勤続表彰)【6月21日(水)オルガホール】

今回の職員研修交流会は、県生協連会長理事吉永 紀明さんに「生協で仕事をするということ」と題しての講演と、永年勤続表彰(10年勤続職員)を兼ねて行われました。

講演の後、8つのグループごとに交流を深めました。

夢をもつことの大切さ、きっかけはどこに落ちているのかわからなく、いろんな経験をすることが大切だと思った。5年、10年後の自分のビジョンをしっかりとって、一日一日しっかりと働いていきたい。これまで、他生協の職員と話し合う機会がなかったので、新鮮な気持ちになれたなどの感想が寄せられました。

参加者は6会員生協 44名。



↑10年勤続表彰の様子



↑「10年目は次のステップを考える時期」

◆岡山県協同組合連絡協議会交流会【7月7日(金)オルガホール】

国際協同組合デーを記念して1996年に始まった交流会は、11回目を迎え、県内の4協同組合の役職員と県農林水産部職員など総勢41名の参加のもとで行われました。

JA岡山中央会会長の村上進通さんの開会挨拶と県農林水産部の藤原幸一次長の挨拶に続いて、「農業・農政をめぐる最近の情勢」と題して、JA岡山中央会宮本芳郎専務理事の報告がありました。

基調講演として、倉敷医療生協水島南診療所長の前 律夫さんに「高齢社会 どうなる生活、くらし、健康や病気、老後」～農業や食は素人ですが・・・と題してお話をいただきました。

講演の感想や日頃の問題意識などを交換し、吉永紀明協議会副会長(県生協連会長理事)の開会の挨拶で締めくくりました。

交流会の後は、懇親会に移り、和やかに親睦が深められました。



↑日本の百歳以上人口が50万人になる日は、そう遠くない



↑「食べる大切」をくらしに



↑学校農園で農業体験を